

# アイヌ民族文化研究センターだより No.40

2014年3月

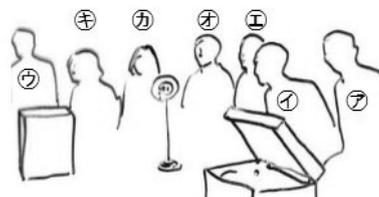
<b>●もくじ</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・久保寺逸彦文庫の資料から 昭和の初めごろの録音機材…………… 1</li> <li>・資料展 「久保寺逸彦・アイヌ文学研究の足跡」を開催します！…………… 2</li> <li>・研究課題紹介 北海道東部地域のアイヌ語に関する基礎的調査…………… 3</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公開している資料から 「北方文化展」と「東京アイヌ学会」に関する資料 …… 4</li> <li>・寄贈を受けた資料…………… 6</li> <li>・お知らせ…………… 8</li> </ul>

## 久保寺逸彦文庫の資料から 昭和の初めごろの録音機材

写真①の右側にある、八角形をしたもの、これが何だかわかるでしょうか？

——正解は、録音用のマイクロフォンです。昭和初期に放送局でも多く用いられた、ライツ型と呼ばれるタイプです。

写真②のちょうど真ん中、スタンドの上に、このマイクロフォンがあるのが見えます。



久保寺逸彦文庫写真資料 (KP1103-010)

写真②は、アイヌ語研究者である故・久保寺逸彦氏が、1935（昭和10）年に、旭川で口承文芸などを採録しているようすを写したものです。

右端が久保寺氏（㉗）。当時まだ32、3歳の新進気鋭の頃です。その左隣、少し身を乗り出しているのが、久保寺氏の師でもあった金田一京助氏（㉑）。また、左端の男性は川村カ子ト氏（㉒）。4人の女性は右から川村ムイサシマツ氏（㉓）・鹿田シムカニ氏（㉔）・タネモンコロ氏（㉕）・ウテパンカ氏（㉖）で、いずれもこの地域の伝承者として知られる人々です。

久保寺氏は1934（昭和9）年から日本学術振興会の助成を受け、北海道や樺太（サハリン）の各地でアイヌ語を録音してまわっていました。写真②はその調査の一コマで、当研究センター所蔵の久保寺逸彦文庫の写真資料として整理し、公開しています。

写真②で、久保寺氏の前に置かれている大きな箱が、レコード盤の録音機です。

このときの調査で録音されたレコード盤は、1977（昭和52）年に氏のご遺族のご厚意により北海道立図書館に寄贈され、2009（平成21）年には当研究センターに移管し、久保寺逸彦文庫資料として一括保管しています（この概要については前号の「たより」で紹介しました）。

このほど、写真①のマイクなど、当時の久保寺氏が用いた録音・撮影機材が、ご遺族より当研究センターに寄贈されました。

残念ながら、録音機本体はもう遺されていませんでしたが、写真①のマイクのほか、録音機に接続して用いたと思われるアンプ、写真撮影に用いられたガラス乾板写真機や三脚、16mmフィルムの撮影機材などが、新しく久保寺逸彦文庫に加わります。

これまでの久保寺逸彦文庫には、録音・録画・撮影されたレコードやフィルムや写真、それらを久保寺氏が聞き起こすなどして筆記していったノート類、さらにはそれらを著作へとまとめていく過程でのノート等々がありました。

そこへ記録に用いた機材等が新たに加わったので、久保寺逸彦という、アイヌ語研究に大きな功績を遺した研究者による調査・記録・整理・考察の過程を示す資料が、ひとつおそろったこととなります。

あらためて、アイヌ文化やその研究のための大事な財産を托されていることを噛みしめながら、引き続き、資料の整理・保存と公開に向けて取り組んでいきたいと思ひます。

〔資料展〕

くぼでらいつひこ  
「久保寺逸彦・アイヌ文学研究の足跡」を開催します！

北海道大学 アイヌ・先住民族研究センターとの共催により、資料展「久保寺逸彦・アイヌ文学研究の足跡」を、同大学同センター 1階ロビーを会場として開催します。

資料展では、アイヌ語やアイヌ口承文芸の研究者であった久保寺逸彦氏の研究の足跡を、「久保寺逸彦文庫」資料の展示を通して紹介する予定です。また、会期中の3月21日には、関連事業として講演会も開催します。

資料展と講演会については、センターのホームページでも随時情報を更新してお知らせしています。

多くの皆さまのご来場をお待ちしています。

●資料展

「久保寺逸彦・アイヌ文学研究の足跡」

主催：北海道大学アイヌ・先住民研究センター  
北海道立アイヌ民族文化研究センター  
会期：2014（平成26）年3月10日（月）～23日（日）  
平日13:00～17:00、土・日・祝10:00～17:00  
（いずれも入場は16:30まで）

会場：北海道大学 アイヌ・先住民研究センター1階\*  
（札幌市北区北8西6 北海道大学構内）

\*会場入口は、通常は施錠しています。インターホンで「展示の観覧に来た」とお伝えください。

※入場無料

●講演会

「久保寺逸彦氏とアイヌ文学研究」

日時：3月21日（金・祝）14:00～17:00

会場：北海道大学 人文・社会科学総合教育研究棟  
201・202教室

◎「久保寺逸彦氏のアイヌ文化研究（仮）」

講師：佐々木 利和 氏

（北海道大学アイヌ・先住民研究センター特任教授）

◎「久保寺逸彦氏の神謡研究（仮）」

講師：中川 裕 氏（千葉大学教授）

※入場無料

※申込不要

当研究センターが所蔵する「久保寺逸彦文庫」は、アイヌ語やアイヌ文化の研究に大きな業績を遺した、故・久保寺逸彦氏の研究資料で、1997（平成9）年に寄贈を受けました。



久保寺逸彦氏  
(1902-1971)

「久保寺逸彦文庫」には、久保寺氏が戦前～戦後に採録した貴重な録音・録画資料や写真資料、採録時のノート類、図書などが含まれています。

中でも、1934（昭和9）～1937（昭和12）年頃に北海道とサハリン（樺太）各地で久保寺氏が採録したレコード盤資料541枚は、まとまった分量のアイヌ語録音資料としては世界で最も古い、大変貴重な資料です。

今回の資料展では、これら録音資料の原盤や、その採録に久保寺氏が用いた録音機材などを中心に展示します。さらに、これらの録音をもとに筆記されたノート類や、それらを使って描かれた原稿…、といった形で、久保寺逸彦氏の研究の足跡をたどっていきます。

これらの展示を通して、久保寺氏が遺した研究資料とその研究の意義を、あらためて紹介します。



## [研究課題紹介]

## 北海道東部地域のアイヌ語に関する基礎的調査

現在、アイヌ語で育った人から直接アイヌ語を教えることは、ほとんど困難になってきています。そうした状況であっても、自分達の言葉ができるようになりたいという若者は増えてきています。中にはゼロから学習を始めて、携帯のメールなどでアイヌ語のやりとりができるくらい力をつけた人もいます。

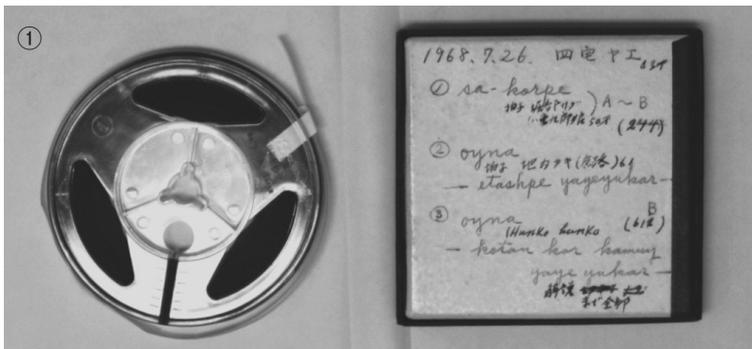
ですが、すべてのアイヌ語方言において、十分な資料の蓄積があり、さらに学習するのに必要な辞典や教材が揃っているとは限りません。そのため、ある地域の人が自分の地域の言葉を学習したいと思っても、自分の地域の言語資料や学習教材がないために、別の地域の言葉を学習していることがしばしばあります。教材がある地域が、地理的にも方言的にも遠いということもよくあります。

本研究課題で対象とする、帯広・釧路・白糠・美幌などの北海道東部地域は、このような学習・研究のための資料の蓄積の乏しさがかねてから指摘されてきた地域です。本研究課題では、それらの地域を対象にして、言語資料の整備と文法面の方言差は何かという関心に基づいた基礎的な言語研究を、5年の計画で行いたいと考えています。このような研究調査は、現在のアイヌ語をとりまく環境においては必要性が増しており、アイヌ語を学習したり、教えたりする場合に役立つものと思っています。

\* \* \* \* \*

本研究課題では、主に次の三種類の音声資料の調査と分析を行いながら、適宜様々な文献資料についても調査していきます。

音声資料の一つめは、当センターが所蔵する久保寺逸彦文庫と山田秀三文庫の資料です。録音内容は民俗調査や口承文芸のテキストですが、簡単な語彙調査もあります(写真①は久保寺氏が採録したテープです)。



久保寺逸彦文庫KC000074のオープンリールテープと外箱。外箱には久保寺氏の筆跡で箱書きがなされています。

当センターの資料は既に一部を公開していますが、引き続き公開を進め、基礎となる資料を増やして行きたいと考えています。

二つめは、昭和49年度から平成15年度にかけて、アイヌ語の資料の採録や翻訳を目的とした諸事業で、北海道教育委員会に取められた資料です。それらの資料はテープ目録を兼ねた報告書や(写真②)、物語を文字化した報告書が成果として刊行されています。ですが、まだ文字化されていない資料が大量にあります。その中には北海道東部地域の資料も含まれています。なお一部については、道立図書館の資料検索で調べて、閲覧することが可能です。

三つめは、北海道東部の各地にある博物館や郷土資料館が所蔵するアイヌ語資料です。これから調査しなくては何とも言えないところですが、各地域の博物館や資料館にご協力をお願いしながら、そうした資料の所在調査を行いたいと考えています。

\* \* \* \* \*

言語資料の整備は、上記に述べたような資料についての所在と関連資料の調査を行い、それらの情報を集約したリストを作成する方法を進めます。基礎的な言語調査は録音テープの文字化と文献資料のデータ化(文字入力)を行い、文法調査を行うための言語データベースを構築しながら進めます。

最後にどのような点に注目して言語研究を進めるのかをお話します。本研究は資料的な制約が大きいため、用例数がある程度期待できる文法項目を中心に調査せざるを得ません。具体的には当センターの紀要20号で扱った道東や樺太方言で使われる接続助詞tek「～して」など、比較的研究の蓄積がある方言と相違が見られる部分に注目して、言語研究を進めて行きたいと考えています。(研究職員 田村雅史)



北海道教育委員会(編)『アイヌ民俗文化財緊急調査報告書(無形民俗文化財 3)』(1978)、『(同 4)』(1979)、『(同 6)』(1981)

[公開している資料から] 久保寺逸彦文庫 文書・写真資料

## 「北方文化展」と「東京アイヌ学会」に関する資料



写真①は、1936（昭和11）年8月、東京アイヌ学会という会の主催で、東京の白木屋百貨店（現在の東急百貨店）で開催された「北方文化展」の会場入り口の様子です。久保寺逸彦文庫の写真資料の中にあるものです。

写真②は、そのとき出品された資料などの目録です。久保寺逸彦文庫の文書資料の中に残されていました。表紙には、クマと魚（おそらくサケだと思われます）のイラストが描かれていますが、こうした図柄は昔も今も、北海道に関わるものによく見られることです。魚のウロコの模様は、アイヌの木彫品に見られるウロコの模様をかたどっています。

この展覧会でも、北海道・樺太（サハリン）の歴史に関する展示とともに、アイヌの民具などが多数紹介されました。

\* \* \* \* \*

白木屋は、東京の日本橋1丁目にあった、当時の東京の百貨店の中では代表的な存在の一つとされます。アイヌの伝統的な民具などを博物館や博覧会で展示することは明治の初年から見られますが、この展示会は、多くの客を集める施設として大都市に広がりつつあった百貨店を会場にしたことに、時代の特徴がうかがえます。

\* \* \* \* \*

「北方文化展」を主催したとされる「東京アイヌ学会」は、金田一京助（1884～1971）が会長、杉山寿榮男（1885～1946）が副会長、久保寺逸彦（1902～1971）



左：写真① 北方文化展の会場入り口のようす (KP1114-002)

上：写真② 北方文化展出品目録の表紙 (KD5205)

や知里真志保（1909～1961）が委員をつとめるなど、当時のアイヌ文化研究の第一線の研究者が名を連ねていた団体です。

ただ、この会についての詳しいことがら、特にこの展覧会以外にはどのような活動をしていたのか等については、あまりよくわかっていません。

「北方文化展」開催を間近に控えた同年7月15日付け発行の『人類学雑誌』には、「今回金田一博士杉山寿榮男氏等の主唱により、東京アイヌ学会が創立された」と報じる記事（写真③）があるので、発足の背景にはこの展覧会の開催があった、ということも考えられそうです。

**東京アイヌ学会創立** 今回金田一博士杉山寿榮男氏等の主唱により、東京アイヌ学会が設立された。同会は「アイヌの文化事象を調査研究し其民族生活の本質を闡明し、日本文化の研究に資するを以て目的とす」る學會であり、其目的達成の爲に、年1回總會、月1回例會を開き、公開及び非公開の講演會を開催、民族資料の現地採集を行ひ之を整理出版、更に年4回機關誌を發行すると云ふ。役員は次の諸氏である。

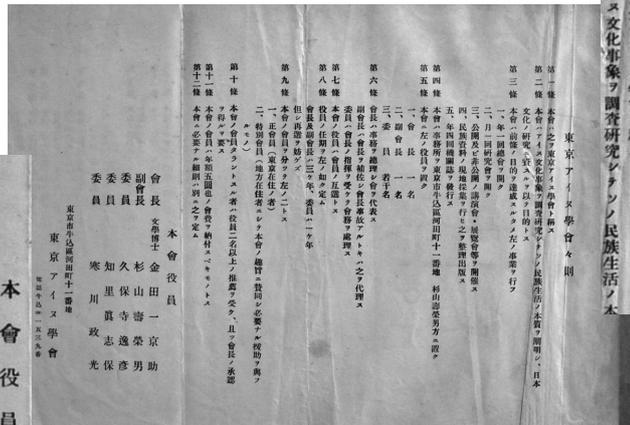
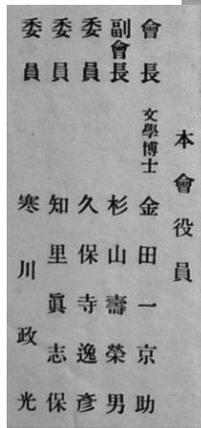
會 長 金田一京助  
副會長 杉山壽榮男  
委 員 久保寺逸彦 知里眞志保  
          窓川 政光

會費は年額5圓、事務所は東京市牛込區河田町11番地杉山氏方に置く。  
尙同會主催の北方文化展覽會を來る8月5日より31日まで東京日本橋白木屋に於て開催する豫定であると云ふ。

右：写真③ 『人類学雑誌』第51巻第7号に掲載された「東京アイヌ学会創立」の記事



左：写真④ 新聞に掲載された広告。久保寺氏がスクラップしたもの (KD5205)



上：写真⑤ 東京アイヌ学会々則 (KD5205)  
 右上、左：写真⑤の部分 (拡大)

当時の新聞には、この展示会を宣伝する大きな広告も掲載されています (写真④)。

広告では「北方文化アイヌ展」のように書かれており、アイヌ文化に関する展示や実演を「目玉」に据えようとしていた様子もうかがえます。「夏休み中の研究に」との文字も見えます。

\* \* \* \* \*

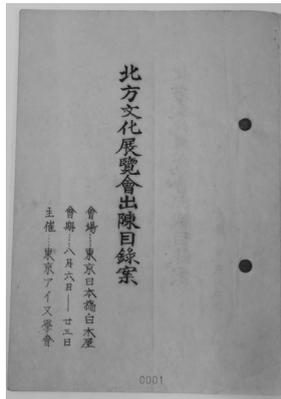
このように、「北方文化展」のことは、当時のさまざまな記録に載ったので、アイヌ文化の展示や調査の歴史に関する研究の中では、このような展示が行われたことまでは、比較的よく知られています。しかし実際の展示内容については、これまであまり記録が残されていませんでした。

当研究センター所蔵の久保寺文庫の写真資料には、さきに紹介した会場入り口の写真のほか、会場内の風景を撮影したものも数点残されています。また文書資料には、東京アイヌ学会の会則 (写真⑤) や、写真②の出品目録、さらにはその「案」の段階の文書 (写真⑥) なども残されています。いずれも、こうした会や企画に関わった久保寺氏が、几帳面に、丹念に、スクラップブックに貼付けておくなどして、遺されていたものです。

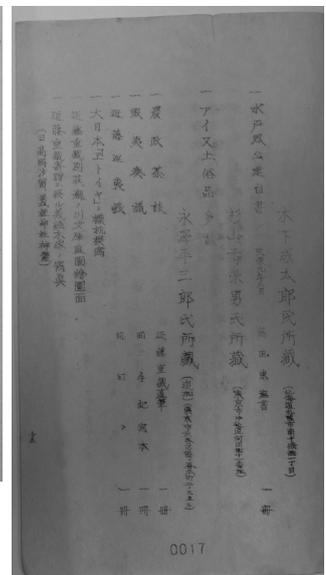
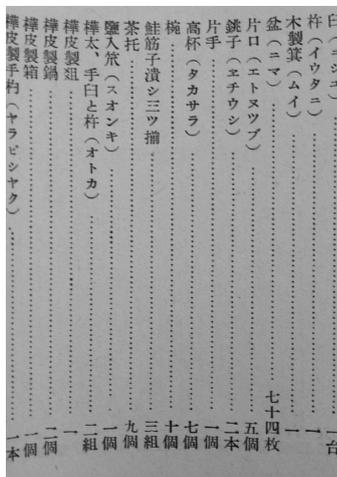
\* \* \* \* \*

依然として、手がかりとしてはまだまだ僅かな、断片的なものです。今から80年ほど前の東京で、アイヌ文化に関わるどのような行事が企画され、それは当時の東京の人々にどのような認識や影響を与

えたのか——。そうした問題にもつながっていく基礎的な資料が、久保寺逸彦文庫の中にはたくさん遺されています。



左：写真⑥ 北方文化展覧会出陳目録案 (KD5205)



上、右：写真⑥の内容の一部

## 寄贈を受けた資料 (2013年9月～2014年1月)

発行者名の50音順に資料名を掲載しています。  
寄贈していただいた方々・機関にお礼を申し上げます。

### 愛知県立大学多文化共生研究所

・共生の文化研究 8

### アイヌ語地名研究会

・アイヌ語地名研究会会報 第47、48号

### (財)アイヌ文化振興・研究推進機構

- ・アイヌ民族：歴史と現在－未来を共に生きるために－〔小学生用〕
- ・アイヌ民族：歴史と現在－未来を共に生きるために－〔中学生用〕
- ・アイヌ民族：歴史と現在－未来を共に生きるために－〔教師用指導書〕
- ・くしろ・しらぬかのアイヌご
- ・初級アイヌ語 釧路・白糠
- ・中級アイヌ語 釧路・白糠
- ・とかちのアイヌご
- ・初級アイヌ語 十勝
- ・中級アイヌ語 十勝
- ・しずないのアイヌご
- ・初級アイヌ語 静内
- ・中級アイヌ語 静内
- ・単語リスト(アイヌ語・日本語) 釧路・白糠
- ・単語リスト(アイヌ語・日本語) 十勝
- ・単語リスト(アイヌ語・日本語) 静内
- ・ロシアが見たアイヌ文化 ロシア科学アカデミー・ピョートル大帝記念人類学民族学博物館のコレクションより
- ・アイヌ関連総合研究等助成事業 研究報告 第8号 上巻 研究篇
- ・アイヌ関連総合研究等助成事業 研究報告 第8号 下巻 資料篇

### 阿寒観光ブランド協議会

・ふんだりけったり クマ神さま

### 秋田県公文書館

- ・秋田県公文書館〔紹介パンフレット〕
- ・秋田県公文書館研究紀要 第19号
- ・秋田県公文書館だより 第28号

### 旭川市博物館

・旭川市博物館研究報告 第5号

### (財)石狩川振興財団

- ・歴史を刻む母なる川 石狩川の記憶
- ・豊平川の橋物語
- ・石狩川の橋物語
- ・石狩川の碑

### AIRDO

・ラポラ No.106、114

### 大阪市立博物館

・第95回特別展 北前船と大阪

### 大分県立歴史博物館

・大分県立歴史博物館研究紀要 14

### 小樽市総合博物館

・小樽市総合博物館紀要 第26号

### 帯広百年記念館

・帯広百年記念館紀要 第31号

### オホーツク・テロワール

・HARU 2013.6 Vol.3

### 小山市博物館

・小山市博物館開館30周年記念 第61回企画展「小山中生まれたアイヌコタンの医師高橋房次」解説図録

### 学習院大学史料館

- ・学習院・永青文庫・東洋文庫 三館連携展示「東洋学の歩いた道」
- ・学習院大学史料館 ミュージアム・レター No.22、23
- ・学習院大学史料館紀要 第19号

### 学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻

・学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻研究年報 第2号

### 歌群短歌会

・短歌雑誌 歌群

### 神奈川大学日本常民文化研究所

- ・神奈川大学日本常民文化研究所〔要覧〕2013
- ・民具マンスリー 第46巻第4号～第46巻第6号

### 菅野修広

・あの世の入り口とくぼみの他界観-アイヌ文化期におけるくぼみでの送り儀礼の意味-〔『北海道考古学』抜刷〕

### 君尹彦文書調査団事務局

・雪解け 君尹彦文書調査団会報 第4号

### 京都市考古資料館

・京都市考古資料館年報 平成21・22年度

### 釧路公立大学

・釧路公立大学紀要 人文・自然科学研究 第25号

### 九州歴史資料館

- ・九歴だより No.37、38
- ・九州歴史資料館年報 平成24年度

### 群馬県立文書館

・群馬県立文書館 文書館だより 第50号

### 高知県牧野記念財団

・高知県立牧野植物園だより No.55、56

### 神戸市立博物館

・〔神戸市立博物館〕博物館だより No.103、104

### 国学院大学北海道短期大学部

・国学院大学北海道短期大学部紀要 第29、30巻

### 国文学研究資料館

- ・国文研ニュース No.31～33
- ・国文学研究資料館 2013 平成25年度

### 国立民族学博物館

- ・月刊みんぱく 第37巻第10、11号
- ・民博通信 No.142
- ・要覧2013
- ・特別展 渋沢敬三記念事業 屋根裏部屋の博物館

### 国立歴史民俗博物館

・歴博 No.177、179

### 小林須佐男

・邪馬台国は意宇出雲国

### 札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部

・札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部紀要 第43号

### 札幌学院大学学芸課程

・札幌学院大学学芸課程 年報26

### 札幌市文化資料室、札幌市公文書館

- ・札幌市文化資料室研究紀要 第5号
- ・文化資料室ニュース 第19号
- ・公文書館だより 創刊号

### 沙流川歴史館

・沙流川歴史館だより No.50

### 滋賀大学経済学部附属史料館

- ・平成25年度企画展 滋賀大学経済学部創立90周年記「彦根高商の日々 聞け黙々として語る史書〔ふみ〕」
- ・滋賀大学経済学部附属史料館研究紀要 第46号

### 渋沢栄一記念財団 渋沢史料館

・渋沢敬三没後50年 企画展 祭魚洞祭

### 標津町教育委員会

- ・標津川河口左岸2遺跡-平成23年度標津川改修事業(標津川左岸下流築堤)に伴う発掘調査報告書-
- ・伊茶仁ふ化場第1堅穴群遺跡-平成10年度水産庁さけ・ます資源管理センター伊茶仁事業場飼育施設等改修工事に伴う発掘調査報告書-
- ・古道第6遺跡-平成11年度標津川改修工事の内シユラ川築堤工事に伴う発掘調査報告書-

### 標茶町郷土館

・標茶町郷土館報告 第25号

### 標津町歴史文化研究会

・会津藩蝦夷地御領分シベツ元陣屋創建150周年記念 北辺の会津藩旗 幕末会津藩史外伝

### 市民外交センター

・市民外交センター 2012年 年次報告書

### 斜里町立知床博物館

・知床博物館第33回特別展図録 発掘されたウトロ遺跡群

・知床博物館研究報告 第33集

### 静嘉堂

・静嘉堂蔵 松浦武四郎コレクション

### スローフード・フレンズ北海道 事務局

・北海道の「味の箱舟」

### 世界人権問題研究センター

・世界人権問題研究センター年報 2012年度

・世界人権問題研究センター共同研究 2013年度  
・GLOBE No.74

**全国歴史資料保存利用機関連絡協議会**  
・全国歴史資料保存利用機関連絡協議会 会報 No.93

**先住民族の10年市民連絡会**  
・先住民族の10年News 第197号～第200号

**創価大学**  
・創価人間論集 第6号  
・ソシオロジカ 第37巻第1・2号

**伊達市噴火湾文化研究所**  
・Newsletter 噴火湾文化 Vol. 6

**知多市歴史民俗博物館**  
・知多市歴史民俗博物館年報 第14号(平成24年度)

**千歳市総務部総務課**  
・『新千歳市史』機関誌 志古津 第17、18号

**伝統文化活性化国民協会**  
・伝統文化 No.46

**天理大学付属天理参考館**  
・天理参考館報 第26号

**東京外国語大学語学研究所**  
・語学研究所論集 第18号

**東京都歴史文化財団、東京都江戸東京博物館**  
・江戸東京博物館NEWS Vol.83、84

**東北芸術工科大学東北文化研究センター**  
・東北学 02  
・東北文化友の会会報 まんだら Vol.52～54

**東北大学東北アジア研究センター**  
・東北大学東北アジア研究センター ニュースレター  
CNEAS 第57、58号

**東北福祉大学芹沢銈介美術館**  
・東北福祉大学 芹沢銈介美術館 年報4

**とちエテケカンパの会**  
・とちエテケカンパの会だより 2012年度

**徳島県立鳥居龍蔵記念博物館**  
・徳島県立鳥居龍蔵記念博物館展示解説  
・徳島県立鳥居龍蔵記念博物館展示解説第2集 地図に見る鳥居龍蔵の足跡

**富山県埋蔵文化財センター (編)**  
・縄文時代の越飛を結ぶムラ：布尻遺跡  
・砺波平野の縄文時代中期のムラ：松原遺跡  
・縄文時代の越飛を結ぶムラ：布尻遺跡出土品集  
・砺波平野の縄文時代中期のムラ：松原遺跡出土品集  
・平成25年度特別展図録 禍が遺した歴史  
・富山県埋蔵文化財センター年報 平成24年度  
・埋文とやま Vol.122～125

**苫小牧市博物館**  
・苫小牧市博物館だより No.62

**長野県立歴史館**  
・長野県立歴史館たより Vol.75～77  
・平成二五年度秋季企画展 刃が語る信濃 武器、象徴、そして芸術へ

**中村和之**  
・謝辞『職貢図』にみえるアイヌのイナウカサについて〔『史朋』抜刷〕

**奈良県立民俗博物館**  
・奈良県立民俗博物館だより Vol.39 No.1

**新潟県立文書館**  
・新潟県立文書館年報 第21号

**日本教育学会**  
・教育学研究 第80巻第3号

**日本マキリ研究学会**  
・マキリ研究会通信 No.57、58

**日本歴史学会**  
・日本歴史 第788号

**沼津市明治史料館**  
・沼津市明治史料館通信 通巻113、114号  
・近代沼津人物列伝

**根室市歴史と自然の資料館**  
・根室市歴史と自然の資料館紀要 第25号  
・くるまいし 根室市歴史と自然の資料館たより No.28

**ノーザンクロス**  
・カイ Vol.21

**反差別国際運動日本委員会**  
・IMADR-JC通信 No.175、176

**阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター資料室**  
・阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター 資料室  
ニュース Vol.51

**広島市公文書館**  
・広島市公文書館紀要 第26号

**別海町郷土資料館**  
・別海町郷土資料館だより No.159～164

**星野紘ほか (編)**  
・民俗芸能探訪ガイドブック

**北海学園大学学術研究会**  
・北海学園大学学術論集 第156、157号

**北海道アイヌ協会**  
・先駆者の集い 第126、127号

**北海道開拓記念館**  
・北海道開拓記念館だより Vol.43 No.1(通巻219号)～No.3  
(通巻221号)  
・北海道開拓記念館要覧 2013

**北海道環境財団、北海道地球温暖化防止活動推進センター**  
・2012年度活動報告

**北海道ジェイ・アール・エージェンシー**  
・The JR Hokkaido No.301、302、306、307、309、310

**北海道大学総合博物館**  
・北海道大学総合博物館ニュース 第27号  
・知られざるクリル・カムチャッカ ロシアから見た境界のイメージ

**北海道大学大学文書館**  
・北海道大学大学文書館年報 第8号

**北海道文化財保護協会**  
・文化情報 第339～341号

**北海道ポーランド文化協会、北海道大学スラブ研究センター**  
・ポーランドの研究者 ピウスツキの仕事 白老における記念碑の除幕に寄せて

**北海道埋蔵文化財センター**  
・白滝遺跡群 XⅢ 遠軽町 旧白滝5遺跡(2) 北海道埋蔵文化財センター調査報告書302  
・北海道立埋蔵文化財センター年報14 平成24(2012)年度

**北海道立図書館北方資料室**  
・北の資料 128 講演会・資料で語る北海道の歴史 講演録「北海道の出版文化史 昭和時代を中心にして」講師：出村文理氏

**北海道立文書館**  
・北海道立文書館調査研究事業報告書 第2号

**ホリ・プロダクツ**  
・FOR YOU 第30号

**前田一步園財団**  
・財団法人 前田一步園財団

**栢谷隆男**  
・自然の猛威が育んだ日本の音楽〔『奏でる！シリーズ 季刊リコーダー 2013冬号』掲載論文コピー〕

**「まんが交流～夢」事業実行委員会**  
・天と地の家族

**三浦泰之、田島佳也**  
・林孫蔵家文書「松前町年寄詰所日記抜書」〔『余市水産博物館研究報告』抜刷〕

**森亜紀子**  
・日本統治下南洋群島に暮らした沖縄移民 いま、ひとびとの経験と声に学ぶ

**盛岡市先人記念館**  
・盛岡市先人記念館だより No.50、51

**和歌山県立文書館**  
・和歌山県立文書館紀要 第16号

**和合会**  
・八重垣 第50号  
(海外)

**Arctic Studies Center, Smithsonian Institution, National Museum of Natural History**  
・Arctic Studies Center Newsletter No.20

**中国社会科学院**  
・世界民族 2013年第1期～第6期  
・民族研究 2013年第1期～第6期

センターのホームページでは、寄贈を受けた資料のほか、購入した資料などについてもお知らせしています。

## 行事など

### ■リニューアル予告展「北海道開拓記念館から 北海道博物館へ」

北海道開拓記念館と当研究センターが統合して開設される予定の「北海道博物館」を紹介する展示を、9月から2月にかけて、道北の各地を巡回して開催しました。

主催 北海道開拓記念館

アイヌ民族文化研究センター

#### 日程・会場

- ・ 苫前町 9月7日～23日  
苫前町郷土資料館・考古資料館
- ・ 小平町 10月1日～25日  
小平町文化交流センター
- ・ 礼文町 11月2日～17日  
礼文町町民活動総合センター
- ・ 名寄市 11月29日～12月15日  
名寄市北国博物館
- ・ 士別市 12月25日～1月22日  
士別市生涯学習情報センターいぶき
- ・ 枝幸町 2月1日～28日  
オホーツクミュージアムえさし  
このうち、名寄市ではアイヌ文化に関する講座を下記のとおり行いました。多数のご来場をありがとうございました。

### ●講座「アイヌ語と口承文芸の世界 —北海道東部を中心に—」

11月30日(土) 名寄市北国博物館  
講師：田村雅史(当研究センター研究職員)



### ●子ども体験講座

#### 「アイヌ民族の狩りとわな」

12月1日(日) 名寄市北国博物館  
講師：出利葉浩司(開拓記念館学芸副館長)



### ■平成26年度リニューアル予告展

左記の平成25年度の巡回展に続き、平成26年度も道内各地でリニューアル予告展を開催する予定です。

詳細が決まり次第、開拓記念館および当センターのホームページでお知らせします。

## 平成25年度後半の動き

(平成26年2月まで)

・平成25年度 アイヌ民族文化研究センター運営協議会(1月 札幌市)

### ■職員の派遣、参加など

- ・口承文芸伝承者育成事業(10月 白糠町／講師：田村)
- ・国立国語研究所共同プロジェクト アイヌ語班研究会(11月 東京都／参加：田村)
- ・文化の日フォーラム「北海道開拓記念館から北海道博物館へ」(11月 札幌市／パネリスト：小川)
- ・国立民族学博物館共同研究会(11月、2月 東京都／参加：小川)
- ・全国歴史資料保存利用機関連絡協議会大会・研修会(11月 東京都／参加：小川)
- ・室蘭市教育委員会名勝ピリカノカ講演会(11月 室蘭市／講師：小川)
- ・北海道博物館PR巡回展 関連講座「アイヌ語と口承文芸の世界～北海道東部を中心に～」(12月 名寄市／講師：田村)
- ・国文学研究資料館共同研究会(1月 東京都／参加：小川)
- ・講座「カムチャツカ先住民の歌と踊り・儀礼」(2月 網走市／講師：甲地)

## センターの刊行物

平成26年3月までに、この『センターだより』39号のほか、次の刊行物を発行します。

### 『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』20号(3月発行)

(以下は表題と執筆者名です)

〔論文〕宝永元(1704)年空念上人筆録アイヌ語彙「狛言葉」の言語学的考察 佐藤知己

〔論文〕アイヌ語白糠方言におけるtekの用法 田村雅史

〔論文〕サハリン州郷土博物館における南サハリンアイヌのコレクション—収蔵と研究の歴史から— M.M.プロコフィエフ(荻原真子 訳)

〔資料紹介〕アイヌ文献目録2000～2009(その2 雑誌・逐次刊行物篇) アイヌ文献目録編集会

・『研究紀要』は、北海道行政情報センター(道庁別館3F / 011-231-4111内線22-389、または011-241-7979)で有償頒布しています。

・『研究紀要』の論文等の一部は、発行後1年を経過してから順次当センターのホームページにPDFで掲載する予定です。既刊の『研究紀要』からも順次PDF化し掲載しています。どうぞご利用ください。

・『センターだより』は、当センターのホームページでもご覧いただけます。

## アイヌ民族文化研究センターだより No.40

編集・発行 北海道立アイヌ民族文化研究センター  
2014年3月5日

〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目1番地  
(北海道庁緑苑ビル庁舎)

電話 011-272-8801(代) FAX 011-272-8850

月～金 / 9:00～17:00(土・日・祝日/休)

URL <http://ainu-center.pref.hokkaido.jp>

E-mail [hacrc.1@pref.hokkaido.lg.jp](mailto:hacrc.1@pref.hokkaido.lg.jp)